

第3回 佐賀市立小・中学校の 在り方検討委員会

令和8年7月15日(水)
佐賀市教育委員会

目次



I 前回の協議事項の振り返り



II 他都市の事例



III 子どもにとって望ましい規模・配置等について



IV 本日の議論の視点

I 前回の協議事項の振り返り



児童生徒にとって望ましい教育環境とは

- ・ 小学校・中学校共に、望ましい教育環境（多様な学び、学びの質を高めていく）を作るためには、
ある一定程度の児童生徒数が必要である。
→ 具体的には、1学年3クラス程度が望ましい規模ではないか。
- ・ 教職員の体制を整え、両輪で回していくことが必要である。

I 教育職員の時間外在校等時間

令和6年度

	1 箇月時間外在校等時間が45 時間以下の割合	1 箇月時間外在校等時間の平 均時間	平均年次休暇取得日数 (令和6年1月～12月)
小学校	77.9%	31時間09分	14.3日
中学校	69.7%	33時間58分	10.9日

令和7年度

	1 箇月時間外在校等時間が45 時間以下の割合	1 箇月時間外在校等時間の平 均時間	平均年次休暇取得日数 (令和7年1月～12月)
小学校	80.7%	29時間53分	13.0日
中学校	74.8%	32時間59分	11.0日

※特に4月、5月の時間外在校等時間が多い。（主な要因：新年度業務）

※令和6年度は、小学校では「対処困難な児童への対応」「保護者対応」「事務的な業務量」中学校では、「部活動」「対処困難な生徒への対応」「保護者対応」の負担が大きいと感じている。

Ⅱ 他都市の事例【福岡県久留米市】

【概要】

久留米市教育委員会は、児童数の減少に伴う小学校の小規模化の課題に対応するため、平成30年10月「久留米市立小学校小規模化対応方針」を策定

1学年が複数の学級で構成される規模を「望ましい学校規模」とし、未来を担う子どもたちにとって、より良い教育条件・教育環境を整備するために、「望ましい学校規模」を目指した小学校統合の取組を進めていくことを定めた。

複式学級校となっていた下田小学校と浮島小学校の統合を最優先の対応として取り組み、令和3年4月に2校は城島小学校と統合

Ⅱ 他都市の事例【統合後の検証の視点】

児童・保護者・教職員へのアンケート調査や聞き取り調査をもとに検証

【小学校統合後の教育環境に関する検証】

- 1 統合によって、「望ましい学校規模」の確保や教職員の体制の充実化が図られたか。
- 2 統合が児童にとって、より良い教育環境（学習面や学校生活面）の向上に繋がったか。
- 3 統合前に懸念されていた児童の通学の安全確保や不安感の解消が図られているか。
- 4 統合に伴い、学校運営上、どのような効果や課題があったか。

Ⅱ 他都市の事例【望ましい学校規模の確保】

R2年度

5.1現在

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級	合計
城島小	学級数	1学級	2学級	1学級	2学級	1学級	2学級	3学級	12学級
	児童数	32人	37人	37人	43人	35人	43人	13人	240人
下田小	学級数	1学級	複式学級		複式学級		1学級	1学級	5学級
	児童数	6人	4人	7人	7人	5人	8人	1人	38人
浮島小	学級数	複式学級		複式学級		複式学級		1学級	4学級
	児童数	2人	3人	1人	7人	1人	6人	2人	22人
合計	学級数	2.5学級	3学級	2学級	3学級	2学級	3.5学級	5学級	21学級
	児童数	40人	44人	45人	57人	41人	57人	16人	300人



R3年度

5.1現在

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級	合計
城島小	学級数	2学級	2学級	2学級	2学級	2学級	2学級	3学級	15学級
	児童数	44人	38人	44人	45人	54人	35人	15人	275人

*R2→R3年度の児童数減は、転出・転居等による（うち、小規模特認校制度利用児童3人含む）。

統合によって、下田小、浮島小の複式学級や城島小の一学年あたり単学級の状況は解消し、全学年でクラス替えのできる「望ましい学校規模」が確保された。

Ⅱ 他都市の事例【教職員の体制の充実化】

R2年度

	校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	校務員	合計
城島小	1人	1人	14人	1人	1人	1人	1人	20人
下田小	1人	1人	6人	1人	0人	1人	1人	11人
浮島小	1人	0人	6人	1人	0人	1人	1人	10人
合計	3人	2人	26人	3人	1人	3人	3人	41人



R3年度

	校長	教頭	教諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	校務員	合計
城島小	1人	1人	18人	1人	1人	2人	1人	25人

- ・統合前の城島小の教職員数は20人であったが、統合により25人になったことで、経験や年齢などバランスの取れた職員配置が可能となった。
- ・県費の教員1名（福岡県の統合支援事業により加配される職員）及び事務職員1名（共同学校事務室分）の加配があった。
- ・複式学級編制校では教頭や主幹教諭が未配置となるが、統合により解消された。

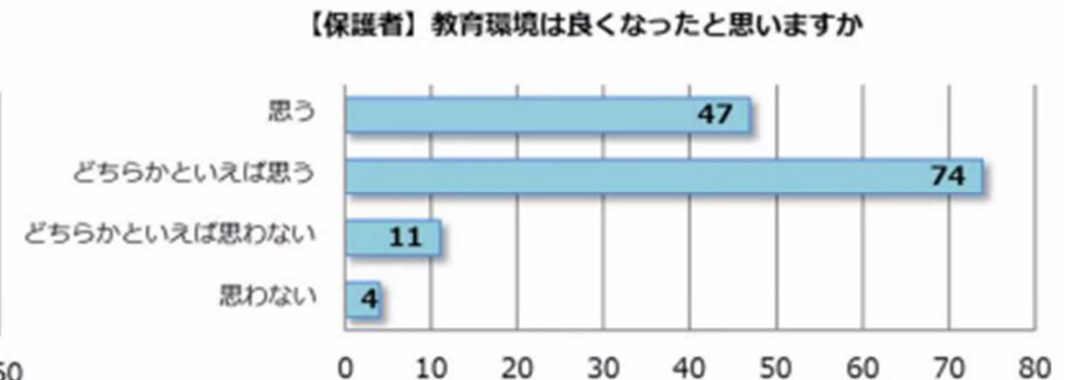
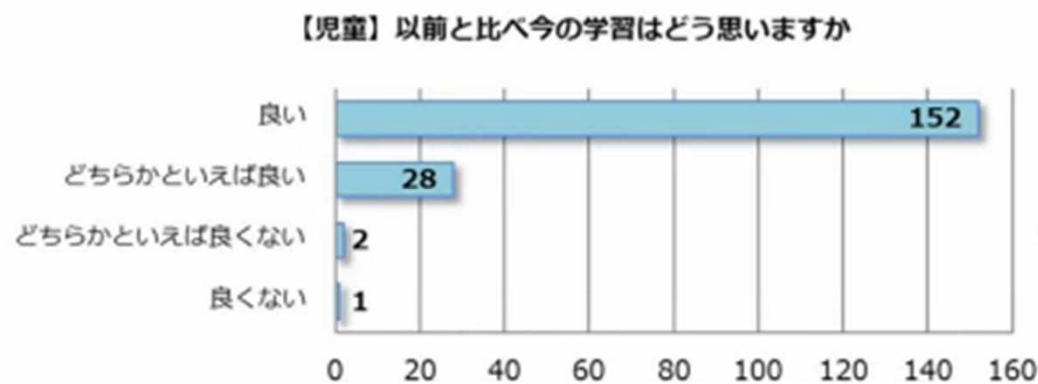
Ⅱ 他都市の事例【教育環境の向上 学習面】

(教員から見た子どもたちの様子)

	児童の教育環境に関する検証
学習面	小規模校ではできなかった音楽の合唱や体育の種目(ボール競技など)ができるようになるなど、集団学習の幅が広がり、多くの友だちと成し遂げる喜びも感じるなど、教育環境が充実した。
	クラブ活動の種類が増えるなど、児童の組織的な活動において、幅広く活動できることを児童も喜んでおり、自ら行動する姿も見られている。
	複式学級では、2学年の授業が同時に進行するため、児童が教員から受ける直接指導の時間は通常学級に比べ半分であったが、統合した今は1学年に集中した授業を行うため、児童も落ち着いた状態で集中して授業が受けられている。
	勉強でも運動でも、新しい友達の多様性に触れ、切磋琢磨する中で、負けたくないという気持ちや、自らも主体的に取り組もうという態度が表れるなど、良い影響が出ている。
	統合前の交流授業で子ども達同士が知り合えるような取組を行ったことや、これまで城島小で取り組んできた友達を大切にする取組などを丁寧に行ってきたことが、アンケート調査においても良い結果に繋がっている。

Ⅱ 他都市の事例【教育環境の向上 学習面】

(児童・保護者へのアンケート調査の結果)



○【児童アンケート】「小学校が一緒になる前と比べ今の学習（音楽・図工・体育を含む）についてどう思いますか」との問いに、「良い・どちらかといえば良い」と回答した児童が98.4%。

○【保護者アンケート】「統合でお子様の教育環境は良くなったと思いますか」との問いに、「思う・どちらかといえば思う」と回答した保護者が89.0%。

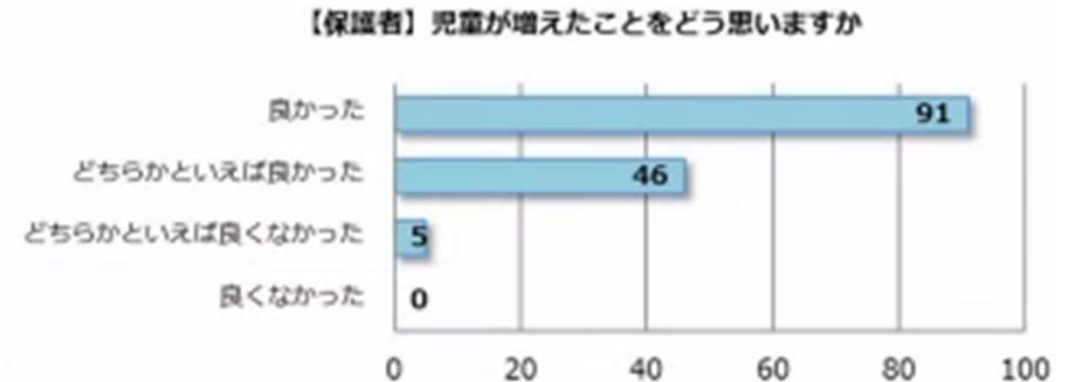
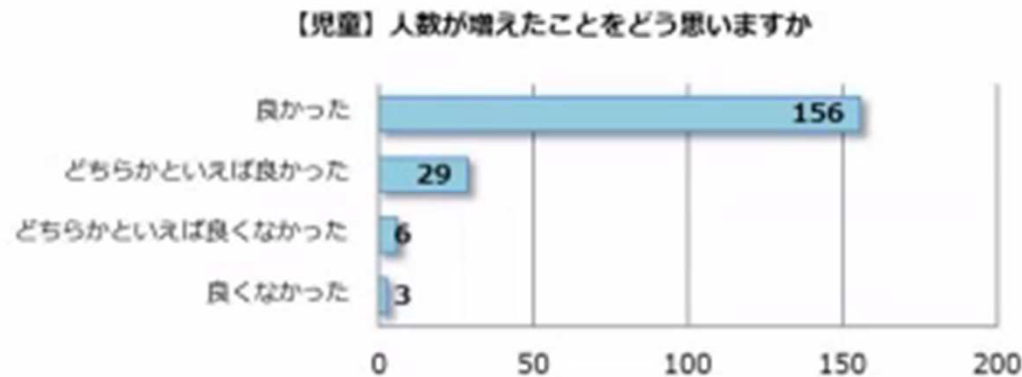
Ⅱ 他都市の事例【教育環境の向上 生活面】

(教員から見た子どもたちの様子)

	児童の教育環境に関する検証
生活面	全ての学年でクラス替えができる状況になり、様々な考えを持つ友達と触れ合う機会が増えるとともに、また、友人関係が固定化しているようなケースもリセットすることができた。
	新しい友だちが増え、相手を思いやる気持ちや、協調性が芽生えている。また、友達の姿を見て自分もやる気が高まっているなど、集団の中で多くの経験ができています。
	少人数で人間関係が固定化されてきたことによる言動が見受けられたが、集団としての行動の仕方やマナー、人との接し方など、学校生活の中で学ぶことができています。
	これまで小規模校では、教師と児童の心理的な距離が近く、教師に依存する傾向が見られた児童も、「公」の場を意識できる一定の集団の中に身を置くことで、子ども達同士で育ちあうことができています。
	様々な活動を行う中で、多くの友だちと親しくなり、自分が人の役に立っている自己有用感のうれしさを感じています。また、いろいろなタイプの友達との関わりの中で、「気が合う」とはこういうことかという共感性を感じており、小規模校では経験できなかった機会が得られている。
	人数が増えたことでのトラブルなども増えたが、それを話し合い解決することで、社会性や協調性が育まれるなど、子どもたちの成長過程の一環として捉えている。

Ⅱ 他都市の事例【教育環境の向上 生活面】

(児童・保護者へのアンケート調査の結果)



- 【児童アンケート】「小学校が一緒になり人数が増えたことをどう思いますか」との問いに、「良かった・どちらかといえば良かった」と回答した児童が95.4%。
- 【保護者アンケート】「統合で児童が増えたことをどのように思いますか」との問いに、「良かった・どちらかといえば良かった」と回答した保護者が96.5%。

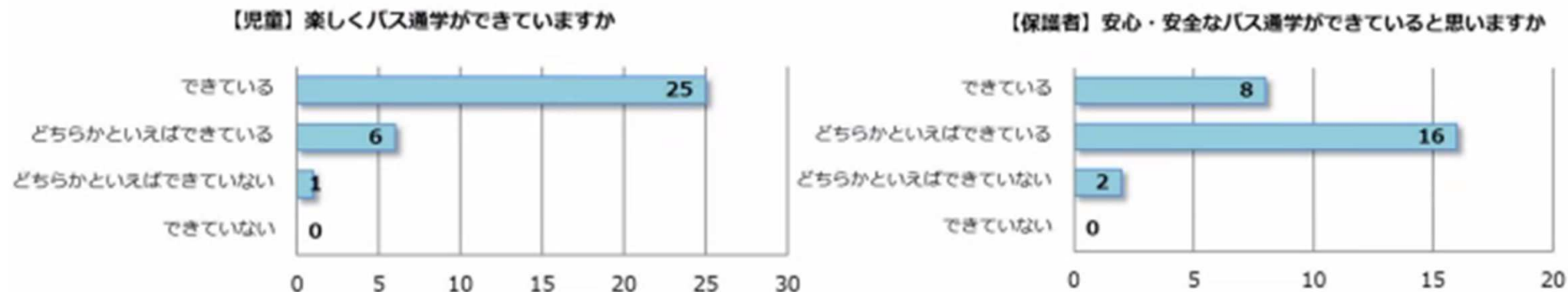
Ⅱ 他都市の事例【通学の安全】

（取組内容）

- （統合した）下田・浮島地区それぞれにスクールバスの運行ルートを設定するとともに、欠席時の連絡などのバス通学に関するルールを定めたバスマニュアルを整備するなど、安全・安心が確保された運行体制に対応した。
- 欠席等の連絡手段にスマホアプリの「LINE」を導入したことで、保護者、学校、バス会社の間で、円滑に連携の取れた運行に繋がっている。
- 運行ルート等を細かく設定したことから、転入による人員増や道路工事等が生じた場合に、その都度、乗車名簿や運行ルートを変更するため、手間と時間を要する。

Ⅱ 他都市の事例【通学の安全】

(児童・保護者へのアンケート調査の結果)



○【(下田・浮島地区のみ) 児童アンケート】「一緒に通う仲間と楽しくバス通学ができていますか」との問いに、「できている・どちらかといえばできている」と回答した児童が96.9%。

○【(下田・浮島地区のみ) 保護者アンケート】「安心・安全なバス通学ができていますか」との問いに、「できている・どちらかといえばできている」と回答した保護者が92.3%。

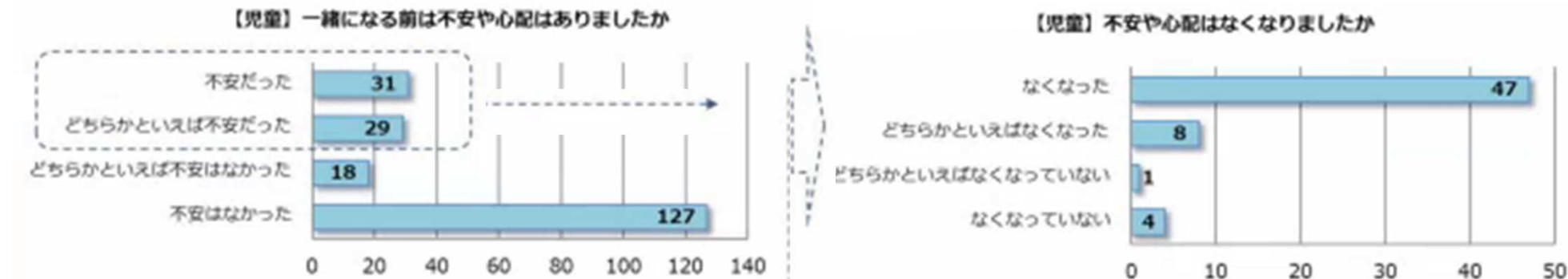
Ⅱ 他都市の事例【不安解消】

（教員から見た子どもたちの様子や取組内容）

- 統合後の児童同士が早い段階で馴染めるよう、統合の前年度に計7回交流授業を実施した。
- 本当に4月から友達になったのかと思うくらい、児童同士が早い段階から馴染んでいる姿を見て、交流授業の効果が大きかったものと考えている。
- 下田小・浮島小の教員を統合校に配置したことは、気心の知れた先生がいるという児童の安心感に繋がっており、重要な取組となった。
- 児童に対するアンケート調査を毎月行うことで、対面では話せないことでも書くことで提出できるため、教員も様々な意見を出しやすいように配慮している。
- スクールカウンセラーの配置を、統合前年度より月1回から3回に増やしている。
- 学校で、仲間づくりのトレーニング（会話の仕方をわかりやすく身に付けるための訓練）やクラスみんなで遊ぶ日の設定、縦割り集会での他学年との交流を行っている。

Ⅱ 他都市の事例【不安解消】

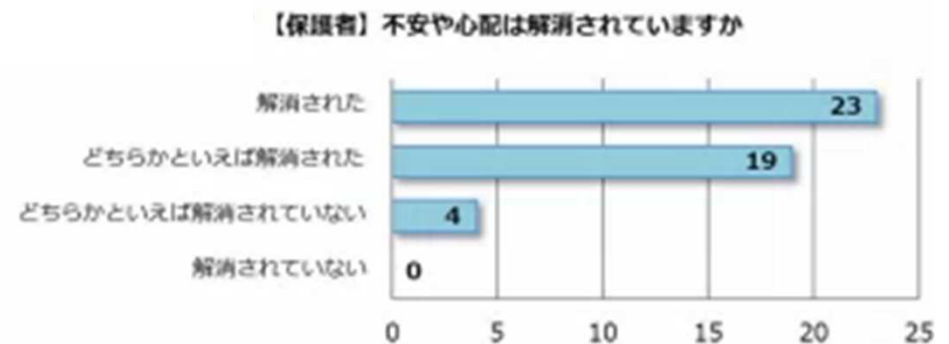
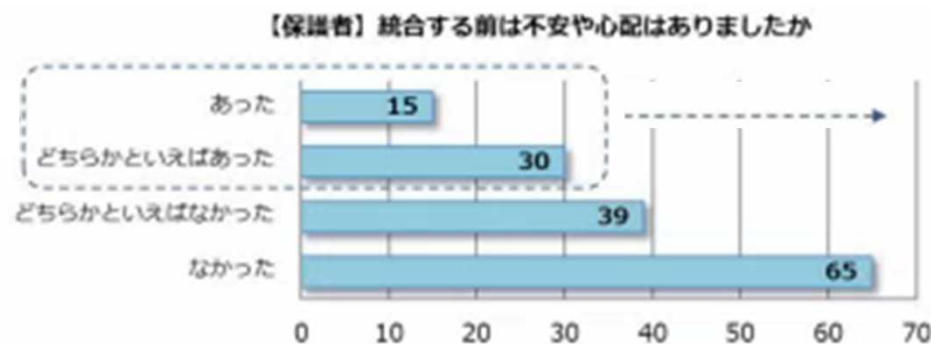
(児童へのアンケート調査の結果)



○【児童アンケート】「小学校が一緒になる前は不安や心配はありましたか」との問いに、「不安だった・どちらかといえば不安だった」と回答した児童が29.3%。そのうち、「その不安や心配は今はありませんか」との問いに、「なくなった・どちらかといえばなくなった」と回答した児童が91.7%。

Ⅱ 他都市の事例【不安解消】

(保護者へのアンケート調査の結果)



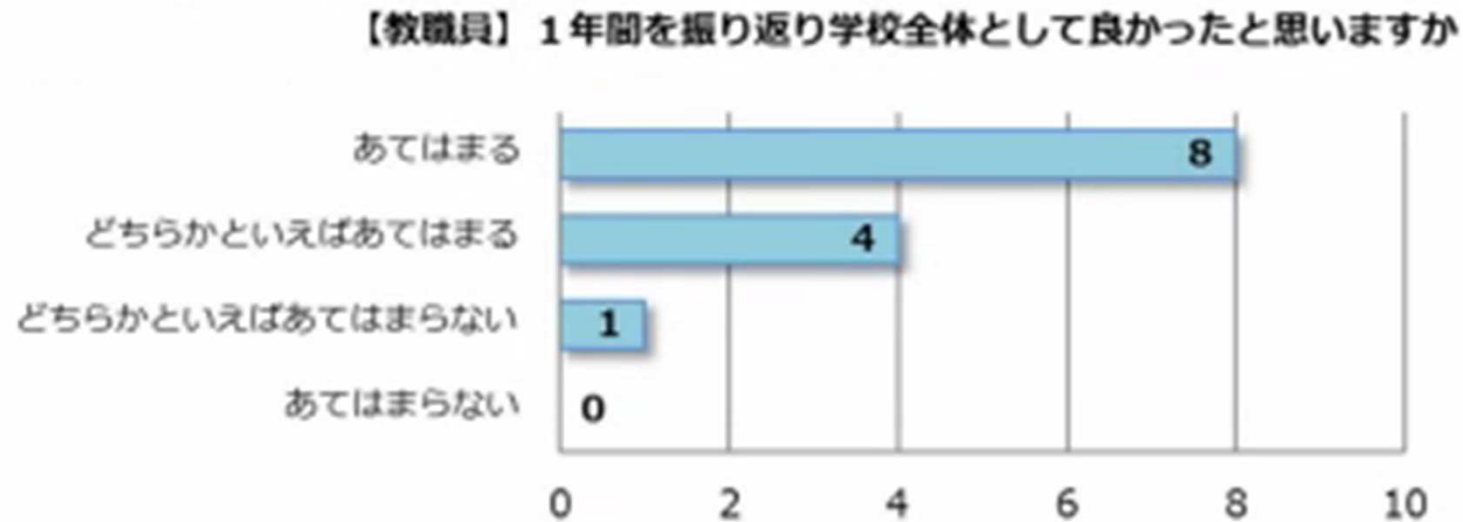
【保護者アンケート】「統合する前は不安や心配はありましたか」との問いに、「あった・どちらかといえばあった」と回答した保護者が30.2%。そのうち、「統合前の不安や心配ごとは今は解消されていますか」との問いに、「解消された・どちらかといえば解消された」と回答した保護者が91.3%。

Ⅱ 他都市の事例【学校運営】

	教職員から出された統合による効果	教職員から出された統合の課題
学校運営	教員の経験や年齢など、バランスの取れた職員配置ができるため、子ども達と向き合う教員も学習や生活面など充実した教育活動にあたることができている。	統合前には引越し作業、交流授業の計画・実施、閉校式の準備、学校行事や授業の調整など、通常の業務に加えて、統合に向けた新たな業務が発生し、負担があった。
	複式学級では、2学年分の授業を同時に進めるため、その準備も2倍必要である。また、教員が児童に関わり習熟させる時間は半分であるため、教員には熟練したスキルが必要で、対応するにはハードルが高かったが、統合により教員の負担感も軽減した。	スクールバスの運行には、バス会社との契約、停車場所の整備、日々の乗車名簿の作成など、多くの作業が新たに発生した。 学校ではその対応に多くの時間を要しており、現在事務員と補助員を1名ずつ増員しているが、多忙の状況が続いている。
	校務分掌の役割分担ができるようになり、教員の負担も軽減した。	次年度以降も今年度と同様の職員配置が必要である。
	全ての学年が2クラスになり、授業の進め方や学年経営を同学年の教員同士で相談し、高め合う環境ができたことで、指導力の向上が図られている。	令和6年度には、福岡県による学校統合に伴う支援策としての教員加配が期限を迎えることから、円滑な学校運営のため、学校と連携を密に行っていく必要がある。

Ⅱ 他都市の事例【学校運営】

(教職員へのアンケート調査の結果)

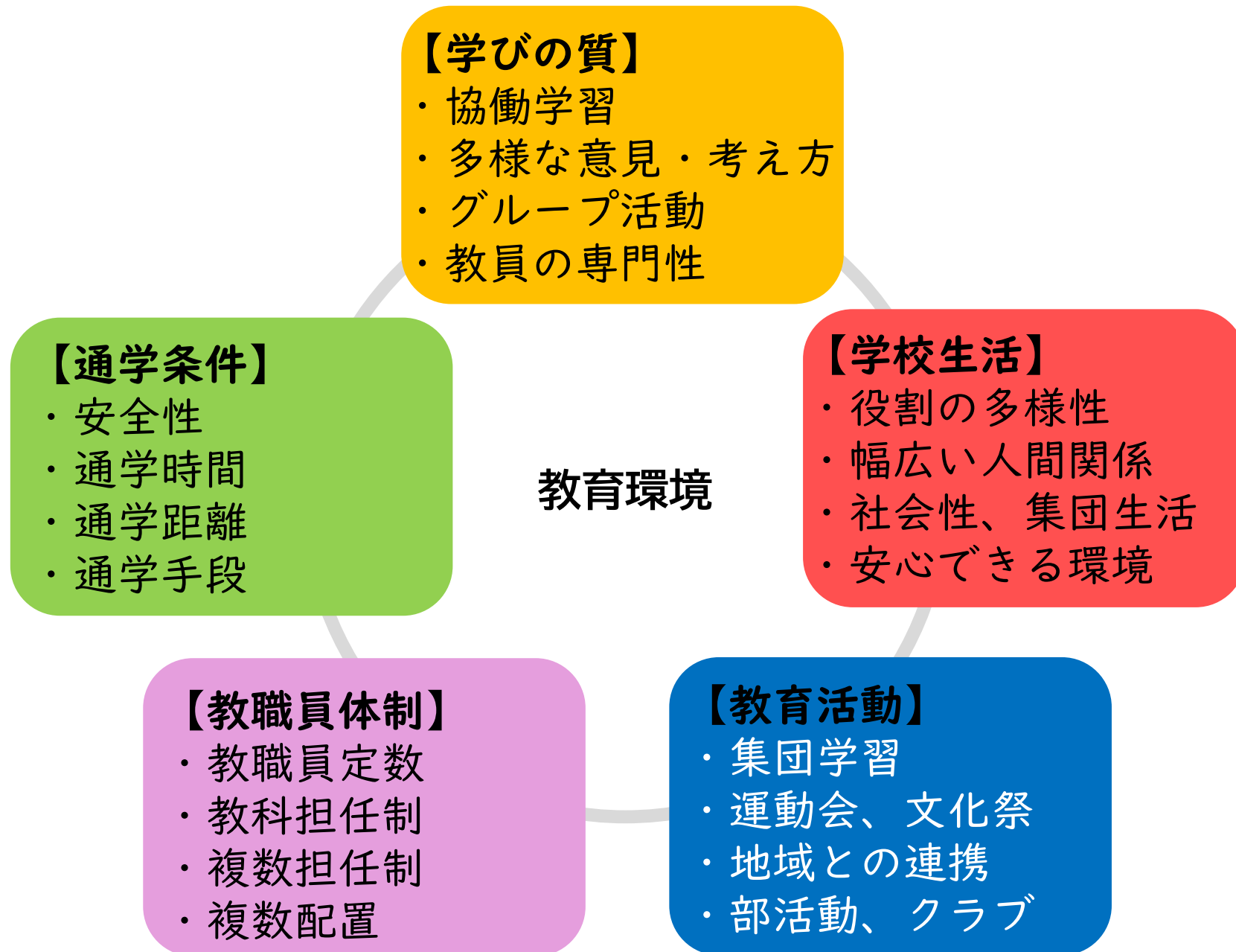


○【教職員アンケート】「3校が統合したことについて、この1年間を振り返り学校全体として良かったと思いますか」との問いに、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と回答した教職員が92.3%。

Ⅱ 他都市の事例【まとめ】

- 学年が2クラス編制となったことにより、子どもたちの教育活動の幅が広がり、新しい友達の多様性に触れる機会や切磋琢磨する機会が増えるなど、教育条件・教育環境が向上した。
- バランスの取れた教員配置が可能となり、授業や校務分掌では、教員同士が協力し合い、分担することによる指導力の向上と負担軽減が可能となった。
- 保護者や地域の協力により、通学時の安全・安心が確保されたスクールバスの運行体制を構築した。
- 統合前に実施した交流授業や統合前後のきめ細やかな見守りや指導などによって、子どもたちの不安感が軽減された。
- 統合によって、教職員等は16人の削減となった。正規の教員が不足している中で、その解消の一助に繋がった。

Ⅲ 子どもにとって望ましい規模・配置等について



Ⅲ 子どもにとって望ましい規模・配置等について

小学校

1 学年当たり 2 学級 ～ 3 学級程度

全体で 1 2 学級 ～ 1 8 学級程度

中学校

1 学年当たり 3 学級 ～ 6 学級程度

全体で 9 学級 ～ 1 8 学級程度

ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。

全体で 1 ～ 5 学級 【複式学級が存在する規模】

一般に教育上の課題（学校運営上、教職員配置、児童に与える影響）が極めて大きいため、複式学級が現に編制されている学校、または将来的に発生が見込まれる段階で、望ましい配置の検討を最優先にする必要がある。

全体で 6 学級 【クラス替えができない規模】

一般に教育上の課題（学校運営上、教職員配置、児童に与える影響）があるため、学校全体及び各学年の学級数・児童数が少ない場合は、望ましい配置の検討をする必要がある。

全体で 7 ～ 8 学級 【全学年ではクラス替えができない規模】

9 ～ 11 学級 【半分以上の学年でクラス替えができる規模】

学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題（学校運営上、教職員配置、児童に与える影響）を整理した上で、望ましい学校規模を継続的に下回った段階、または将来的に発生が見込まれる段階で、望ましい配置の検討をする必要がある。

全体で 1 ～ 2 学級 【複式学級が存在する学校規模】

一般に教育上の課題（学校運営上、教職員配置、生徒に与える影響）が極めて大きいため、複式学級が現に編制されている学校、または将来的に発生が見込まれる段階で、望ましい配置の検討を最優先にする必要がある。

全体で 3 学級 【クラス替えができない規模】

一般に教育上の課題（学校運営上、教職員配置、生徒に与える影響）があるため、学校全体及び各学年の学級数・生徒数が少ない場合は、望ましい配置の検討をする必要がある。

全体で 4 ～ 5 学級 【全学年ではクラス替えができない規模】 6 ～ 8 学級

学校全体及び各学年の生徒数も勘案し、教育上の課題（学校運営上、教職員配置、生徒に与える影響）を整理した上で、望ましい学校規模を継続的に下回った段階、または将来的に発生が見込まれる段階で、望ましい配置の検討をする必要がある。

【参考】学校規模別教員配当

■ 小学校

学級数	校長	教頭 (副校長)	教諭	養護 教諭	事務 職員	計
1	1	1	0	0	0	2
2	1	1	1	0	0	3
3	1	1	3	1	0	6
4	1	1	4	1	1	8
5	1	1	6	1	1	10
6	1	1	7	1	1	11
7	1	1	8	1	1	12
8	1	1	9	1	1	13
9	1	1	10	1	1	14
10	1	1	11	1	1	15
11	1	1	12	1	1	16
12	1	1	13	1	1	17
13	1	1	15	1	1	19
14	1	1	16	1	1	20
15	1	1	17	1	1	21
16	1	1	18	1	1	22
17	1	1	19	1	1	23
18	1	1	20	1	1	24
19	1	1	21	1	1	25
20	1	1	22	1	1	26
21	1	1	23	1	1	27
22	1	1	24	1	1	28
23	1	1	25	1	1	29
24	1	1	26	1	1	30
25	1	1	27	1	1	31
26	1	1	28	1	1	32
27	1	1	30	1	1	34
28	1	1	31	1	1	35
29	1	1	32	1	1	36
30	1	1	33	1	1	37

■ 中学校

学級数	校長	教頭 (副校長)	教諭	養護 教諭	事務 職員	計
1	1	1	3	0	0	5
2	1	1	5	0	0	7
3	1	1	7	1	0	10
4	1	1	7	1	1	11
5	1	1	8	1	1	12
6	1	1	10	1	1	14
7	1	1	11	1	1	15
8	1	1	13	1	1	17
9	1	1	14	1	1	18
10	1	1	16	1	1	20
11	1	1	17	1	1	21
12	1	1	18	1	1	22
13	1	1	19	1	1	23
14	1	1	21	1	1	25
15	1	1	22	1	1	26
16	1	1	24	1	1	28
17	1	1	26	1	1	30
18	1	1	27	1	1	31
19	1	1	28	1	1	32
20	1	1	30	1	1	34
21	1	1	31	1	1	35
22	1	1	33	1	1	37
23	1	1	34	1	1	38
24	1	1	35	1	1	39

学校規模別教員配当表

【参考】令和7年度佐賀県市町立学校県費負担教職員配当基準表から作成

IV 本日の議論の視点 (意見出し)

児童生徒にとって望ましい規模・配置とは

－ 教育ビジョン 自律・尊重・創造 の実現 －

● 望ましい規模（学級数）とは

● 望ましい規模を下回る場合の対応の目安は

- 学びの質・・・多様な意見に触れ、対話的な学びを深めるための望ましい学級数
- 学校生活・・・多様な人間関係を築く機会を確保するための望ましい学級数
固定的な役割意識が定着せず、異なる役割を経験できる学級数
- 教育活動・・・学校行事を行う上で望ましい学級数
クラブ活動・部活動など選択肢の幅と活動が継続できる規模
- 教職員体制・・・児童生徒の学習を保障できる体制・配置
- 安全安心・・・対人関係のトラブルが発生した際、リスク回避できる環境
- 学校運営・・・若手からベテランまでバランスよく配置され、多角的な指導ができる環境
- 通学条件・・・通学距離や通学時間、通学方法

など



次 回

(第1回) 検討委員会・・・児童生徒の推移・将来の見通し 等
令和8年2月27日(金)



(第2回) 検討委員会・・・児童生徒にとって望ましい教育環境
令和8年5月11日(月)



(第3回) 検討委員会・・・望ましい学校規模・配置等
令和8年7月15日(水)



(第4回) 検討委員会・・・望ましい学校配置・通学条件等
令和8年9月～10月予定



(第5・6回) 検討委員会・・・答申整理
令和8年11月～12月予定

小学校では

おおむね**徒歩 30分**以内が望ましい

山間部においては

通学距離より**通学時間**を考慮する

- 適正配置に伴って、児童生徒や保護者に過度の負担をかける恐れがある場合は、負担軽減のための対策が必要である。
- 通学距離や通学路の安全性に問題がある場合は、通学区域の見直しを検討することも必要である。
- 通学路の安全対策についても十分な配慮が必要である。